

平成28年5月12日

各 位

会 社 名 イメージ情報開発株式会社  
代表者名 代表取締役社長 代永 衛  
(コード: 3803、JASDAQグロース)  
問 合 せ 先 取締役経営管理室長 佐藤 将夫  
(TEL:03-5217-7811)

### 中期経営計画の提出等について

当社は、平成29年3月期～平成31年3月期に係る中期経営計画を策定いたしましたので、当該中期経営計画を記載した資料を提出いたします。

なお、以下のとおり、当該中期経営計画について、アナリスト向け説明会を開催いたします。

開 催 日 時	平成28年6月10日 10:00～11:30
開 催 場 所	本社1階会場(東京都千代田区猿楽町2-4-11 犬塚ビル)

なお、当該資料について、当社のホームページに掲載いたします。

U R L	<a href="http://www.image-inf.co.jp/">http://www.image-inf.co.jp/</a>
掲 載 日	平成28年5月12日

#### 【添付資料】

平成29年3月期～平成31年3月期 中期経営計画

## 平成29年3月期～平成31年3月期 中期経営計画

### 1. 今後3か年の中期経営計画

#### (1) 当中期経営計画提出時点における前事業年度の総括(計画に達成状況、成果及び課題)

当期における当社を取り巻く市場環境は、企業収益が改善傾向となり、緩やかながら回復基調で推移しましたが、世界経済の減速や円高、株安による企業活動への影響が懸念されています。

当社グループの主要な事業領域である情報サービス業界においては、企業の業績確保、拡大に向けてIT投資に積極的な取り組みがみられますが、利益率の低迷は未だ続いております。

このような環境の中、当期の連結売上高は1,253,195千円(前期比49.3%増)となりました。

一方、売上原価率はやや上昇しましたが販売費及び一般管理費が大幅に減少し、営業利益は70,532千円(前期は営業損失92,365千円)となりました。経常利益は、貸倒引当金繰入を16,583千円計上したこと等により62,802千円(前期は経常損失178,907千円)となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、15,786千円の減損損失を計上したこと等により37,421千円(前期は親会社株主に帰属する当期純損失76,706千円)となりました。

このような状況において、当社はこれまで培ってまいりましたIT活用による提携企業へのコンサルティング機能を高め、先進的マーケティングソリューションの提供等により新たなサービスの創造とマーケットの開拓、さらに新たな異業種企業との提携による収益創出事業の展開を図ってまいります。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### 〔コンサルティング／設計／構築〕

企業システムのコンサルティング及び設計、開発の業務受託等につきましては、大手企業の大型サーバ入替受注に伴うシステム構築および外部人材リソースを活用し積極的に受注案件を獲得したこと等により、売上高は525,881千円(前期比47.8%増)、セグメント利益は157,693千円(前期比341.1%増)となりました。

#### 〔運用／保守〕

企業システムの運用及び保守の業務受託につきましては、前期からの継続した受注とセキュリティ関連システムの運用商品は堅調に推移しましたが、株式会社アンダースの連結子会社除外の影響から、売上高は156,928千円(前期比21.3%減)、セグメント利益は18,659千円(前期比135.1%増)となりました。

#### 〔商品販売〕

商品販売につきましては、大手企業の大型サーバ入替受注により、売上高は385,858千円(前期比308.9%増)となりましたが、利益率は低く業務間接費を多く負担した影響からセグメント損失は1,164千円(前期はセグメント損失2,016千円)となりました。

#### 〔BPO／サービス〕

BPO(業務アウトソーシング)及び決済等各種サービスの提供につきましては、継続的な取引による売上を確保し、売上高は184,526千円(前期比2.6%減)、セグメント利益は9,378千円(前期はセグメント損失9,452千円)となりました。

## (2) 中期経営計画の概要及び策定の背景

当社グループは、ビジネスインテグレータを標榜し、IT戦略を核に企業ビジネスのサポートを担ってまいりましたが、時代の変化、求めに応じて変化や顧客ニーズの多様化に合わせ、

① IT活用による先進的マーケティングソリューションの提供 ② 新規ビジネスサービスの創造と実践 を経営の基本方針としております。

当社グループは、平成29年3月期では引き続き外部人材リソースの活用によるシステム構築受注拡大をはかります。加えて、業務提携先の北栄社が受託しております那覇空港第2滑走路増設埋立工事への海砂納入が平成28年5月から開始されることによりコンサルティング売上高の拡大を見込んでおります。

一方、株式会社アンダースを連結から除外したことによる売上等の減少ならびに大手企業の大型サーバ入替が平成28年9月に終了することから、これに伴う商品販売及びシステム設計/構築事業の売上が減少し、平成29年3月期通期において売上高935百万円(前期比25.4%減)、営業利益36百万円(前期比47.6%減)、経常利益41百万円(前期比33.7%減)、親会社株式に帰属する当期純利益は21百万円(前期比41.3%減)を見込んでおります。

今後さらなるマーケティング戦略の強化を図り、新たな事業領域を開拓することにより、本中期経営計画の最終年度平成31年3月期におきましては、売上高1,175百万円、経常利益324百万円を計画いたしております。

## (3) 事業の進捗状況及び今後の見通し並びにその前提条件

当社グループは、システム設計を主力事業とし堅実な受注拡大に加え、総合コンサルティング業務の受託等、新たなサービスの創造とマーケティング戦略を駆使した新たな市場の開拓に注力してまいります。

コンサルティング/設計/構築分野は、大手企業等からの受注を獲得するなど、今後の見通しは、主力取引先業界(クレジット・製造・流通)を中心に継続的な受注獲得に加え、営業力強化により新規受注の拡大を図ってまいります。また、取引先の発展に貢献でき、利益率の高いコンサルティング事業強化により、セグメント利益の大幅な改善を図ります。

運用/保守分野では、大型システム設計案件の増強に伴う設計終了後の売上高増を計画しております。さらに会員組織化された企業との取引拡大により、新たな売上高確保を図ります。

商品販売分野では、大型サーバ入替受注が平成29年3月期第2四半期で終了いたします。従来のシステム設計案件の受注に伴うIT製品の販売、及びセキュリティパッケージソフト等の販売促進に継続して傾注し、収益性の向上と安定的な成長を目指します。

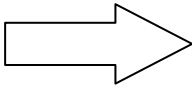
BPO/サービス分野では、簿記検定試験等のWeb入会システムの取扱拡大やデジタルサイン等などの新技術を活用した地域活性化サービスの本格稼働により、継続的な成長を図ります。

## 2. 今後の業績予想及び今後の実績目標

【連結】

単位：百万円

単位：百万円

	平成28年3月期		平成31年3月期
売上高	1,253		1,175
経常利益	62		324

平成29年3月期以降は、売上高は縮小いたしますが、北栄社的那覇空港第2滑走路増設工事等における海砂供量の増加に連動した当社のコンサルティング売上高拡大により、当社の利益率が大幅に向上することを見込んでおります。

以上